



平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

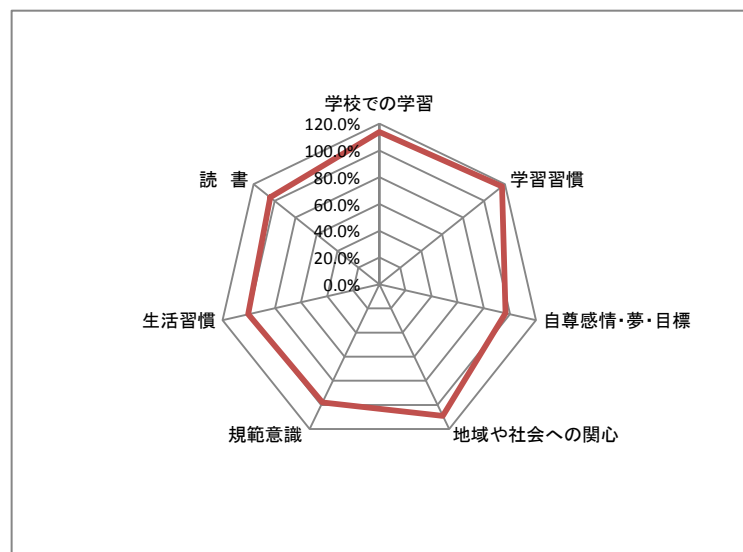
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使うなど、言語に対する知識・理解・技能は高い。 ・文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むなど、「読む」能力に課題が残った。	上回っている
算数	・数学的な考え方など、説明する力を問われる問題に対する理解力は高い。 ・数量や図形についての知識を活用する問題に対して、さらに力をつける必要がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学習に関しては、家庭での学習習慣、学校での学習共に高く、特に教師の指導に対して91.9%の児童が「分かるまで教えてくれる」と感じており、家庭学習も85.5%の児童が1時間以上、30.7%が2時間以上の学習を行っている。
・自尊感情に関しては自らの将来への目標がもてない児童が20.9%存在し、自分によいところがあると思っている児童は82.8%であるのに対し、自分の長所を社会で生かしていく方法が見つけられていない現状が推察される。
・規範意識に関しても約10%が「学校のきまり」を守っていないと答えており、児童会活動・学級会活動や総合的学習を通しての児童の自主性や自治力を育成するための取り組みが求められる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・全校で一時間の学習を大切に「学ボード」の活用や自主的な活動を行う教科指導を継続・発展させ、自分の考えをより広く、深い考えへと追求する取組を実践する。
- ・授業時間とは別に、中尾タイムという学力補充のための時間を設け(全員参加)、5,6年生は、火・木を中尾タイムロング(40分)とし、ひまわり学習塾の指導員や低学年の学級担任も参加して、5,6年の学級担任と共にきめ細かな指導ができるような体制作りをしている。
- ・学年外の教師を中心に、朝自習の時間を使い取り出し指導を行い、少人数にて基礎的な内容の定着を行っている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・全学年で学校で取り組んでいる自学ノートの活用を継続するとともに家庭学習のスケジュール・内容等も計画・実践できるように家庭と連携していく。
- ・「学校だより」等で、家庭学習の大切さを取り上げ、保護者に啓発していく。
- ・規範意識向上のため中学校区で、「あいさつ運動」を共同で取組を行っている。委員会であいさつカード等の取組も行っている。